

令和元年度 男女共同参画社会の実現に向けての 県民意識調査報告書 概要版

調査の概要

(1) 調査の趣旨

千葉県における男女共同参画の意識の変化や実態を把握し、今後の県の施策を推進するための基礎資料とすることを目的として、県民を対象とした意識調査を実施した。

また、今回の調査では、社会情勢の変化を踏まえ、DV や男性の育児休業義務化、女性活躍の推進などの調査項目を新設した。

(2) 調査対象・調査方法・回収結果

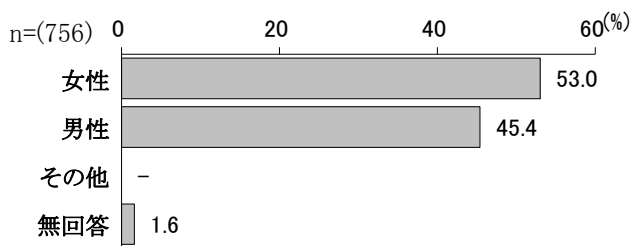
①調査地域	千葉県全域	⑤調査方法	郵送により調査票・返信用封筒を配布し、郵送・オンラインで回収
②調査対象	千葉県在住の満 20 歳以上の男女	⑥調査期間	令和元年 11 月 1 日～11 月 22 日
③標本数	2,000 人	⑦回収結果	756 件 (37.8%)
④標本抽出法	住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法		〔・郵送：679 件 (89.8%) ・オンライン：77 件 (10.2%)〕

《概要版の見方》

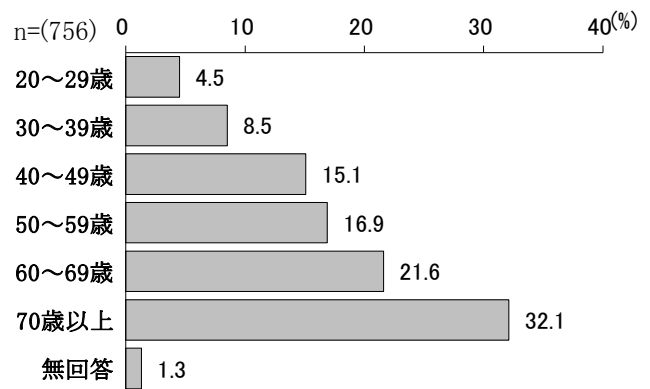
- ・結果は全て百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このために、百分率の合計が 100%にならないことや個々の比率の合計とその少数の数値が一致しないことがある。
- ・グラフ中の () 内の数値は回答者総数 (又は、分類別の該当者数) を示し、回答比率は、これを 100%として算出した。
- ・1 人の対象者に 2 つ以上の回答を認めた設問では、百分率 (%) の合計は、100%を超える場合がある。
- ・回答者数が 30 未満の場合は、比率が上下しやすいため参考値として扱う。

1 回答者のプロフィール

(1) 性別



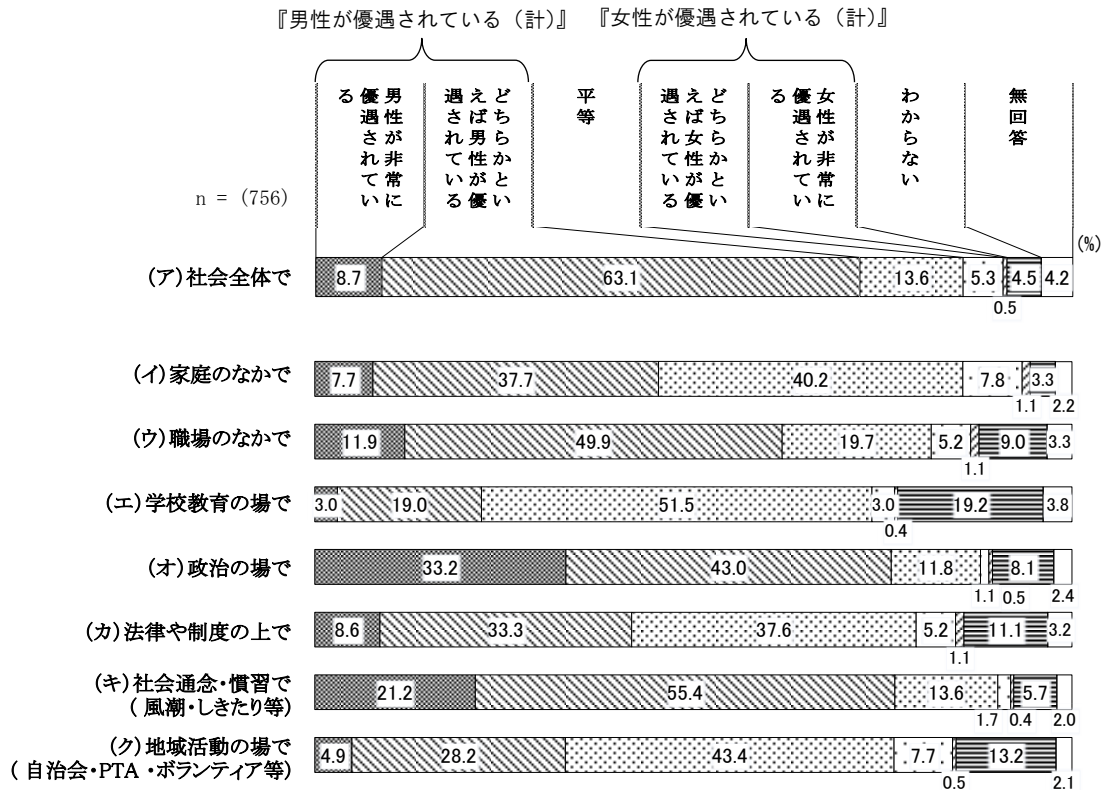
(2) 年齢



2 男女共同参画全般について

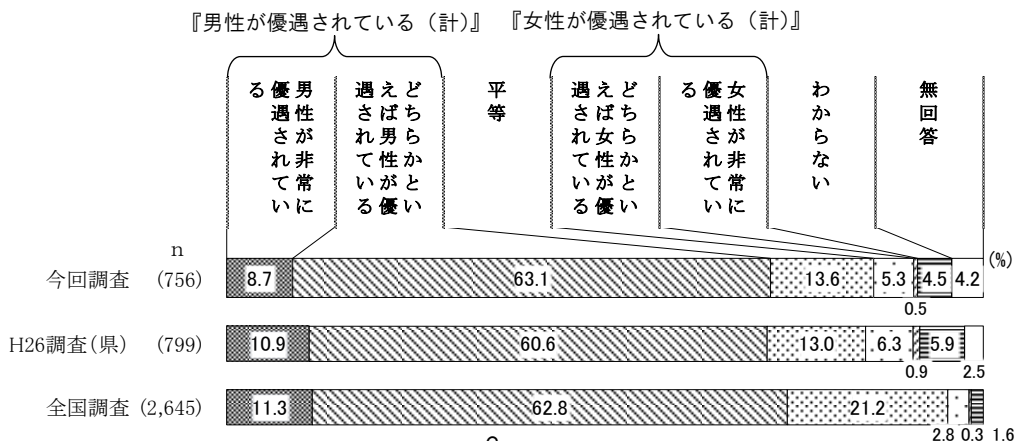
(1) 男女平等意識

- 男女平等意識について聞いたところ、どの分野においても、『男性が優遇されている（計）』が『女性が優遇されている（計）』を上回っている。特に、『男性が優遇されている（計）』分野は、“（キ）社会通念・慣習で(風潮・しきたり等)”が最も高く、次いで“（オ）政治の場で”、“（ウ）職場のなかで”の順となっている。
- 「平等」と思う分野は、“（エ）学校教育の場で”が最も高く、次いで“（ク）地域活動の場で(自治会・PTA・ボランティア等)”、“（イ）家庭のなかで”の順に高く、“（オ）政治の場で”が最も低い。



【全国、経年比較◀（ア）社会全体で▶】 ※全国：内閣府_男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年度）

- “（ア）社会全体で”の男女平等意識を H26 調査と比較すると、大きな差異はみられないが、「男性が非常に優遇されている」、「女性が非常に優遇されている」がそれぞれ減少している。
- 全国と比較すると、千葉県は全国よりも『男性が優遇されている（計）』が低く、『女性が優遇されている（計）』が高い。
- 「平等」は、千葉県が全国よりも 7.6 ポイント低い。

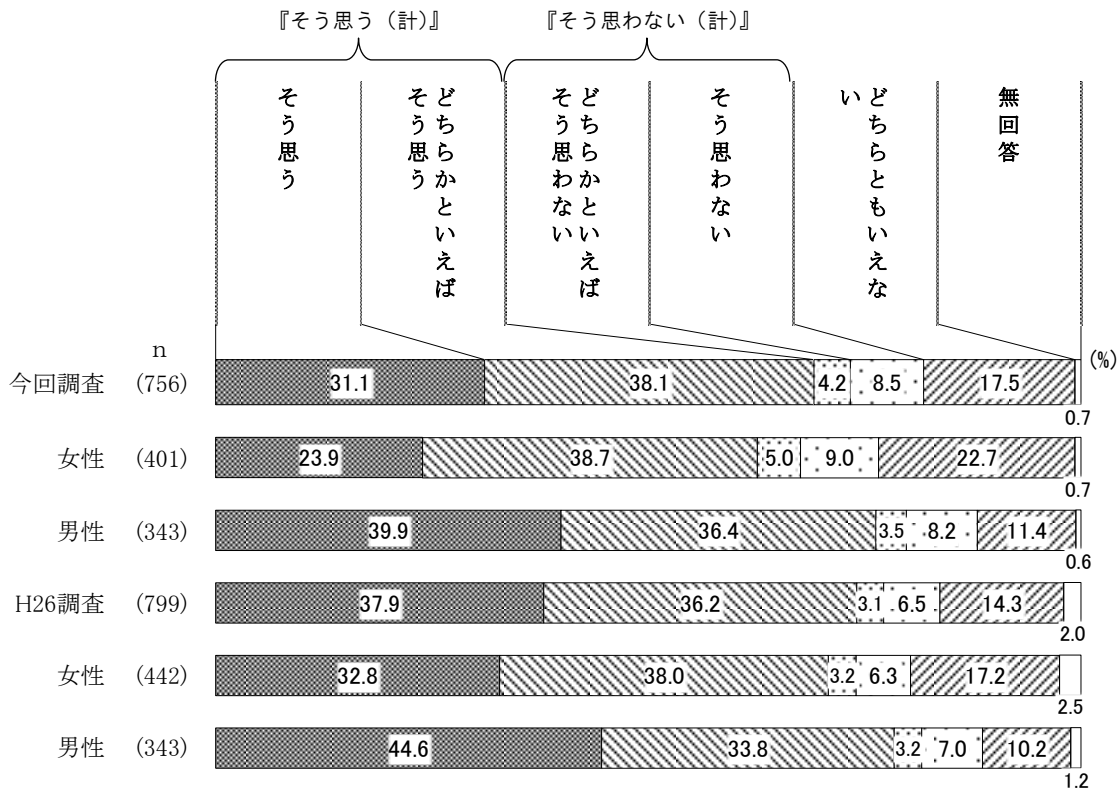


3 家庭生活について

(1) 結婚についての考え

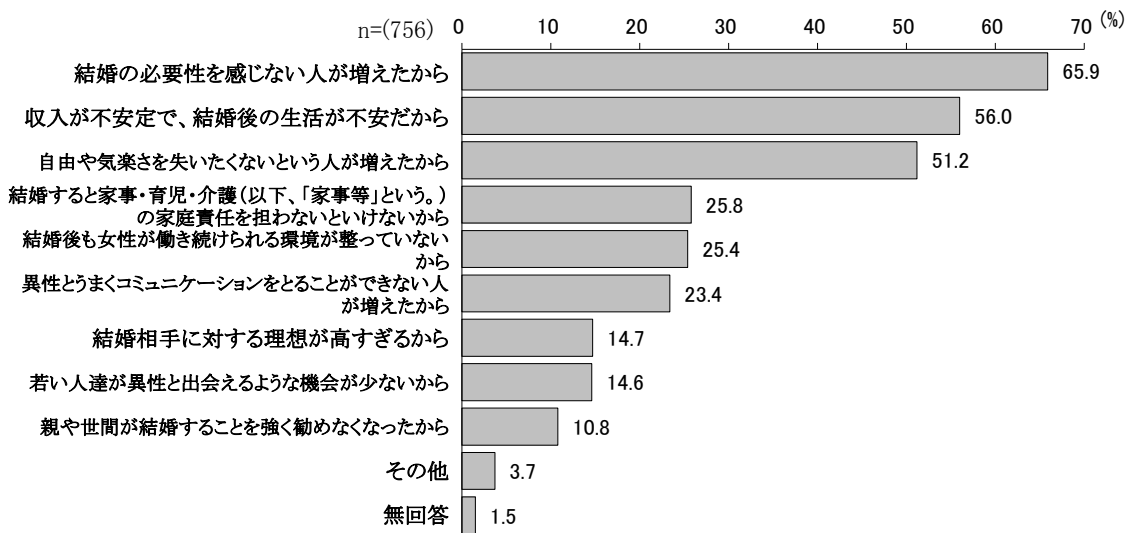
【経年比較<< (ア) 女性も男性も結婚した方がよい>>】

- 前回調査と比較すると、『そう思う (計)』は今回調査が前回調査よりも 4.9 ポイント低くなっており、特に女性は今回調査が 8.2 ポイント低くなっている。



(2) 結婚しない理由 (3つまで複数回答)

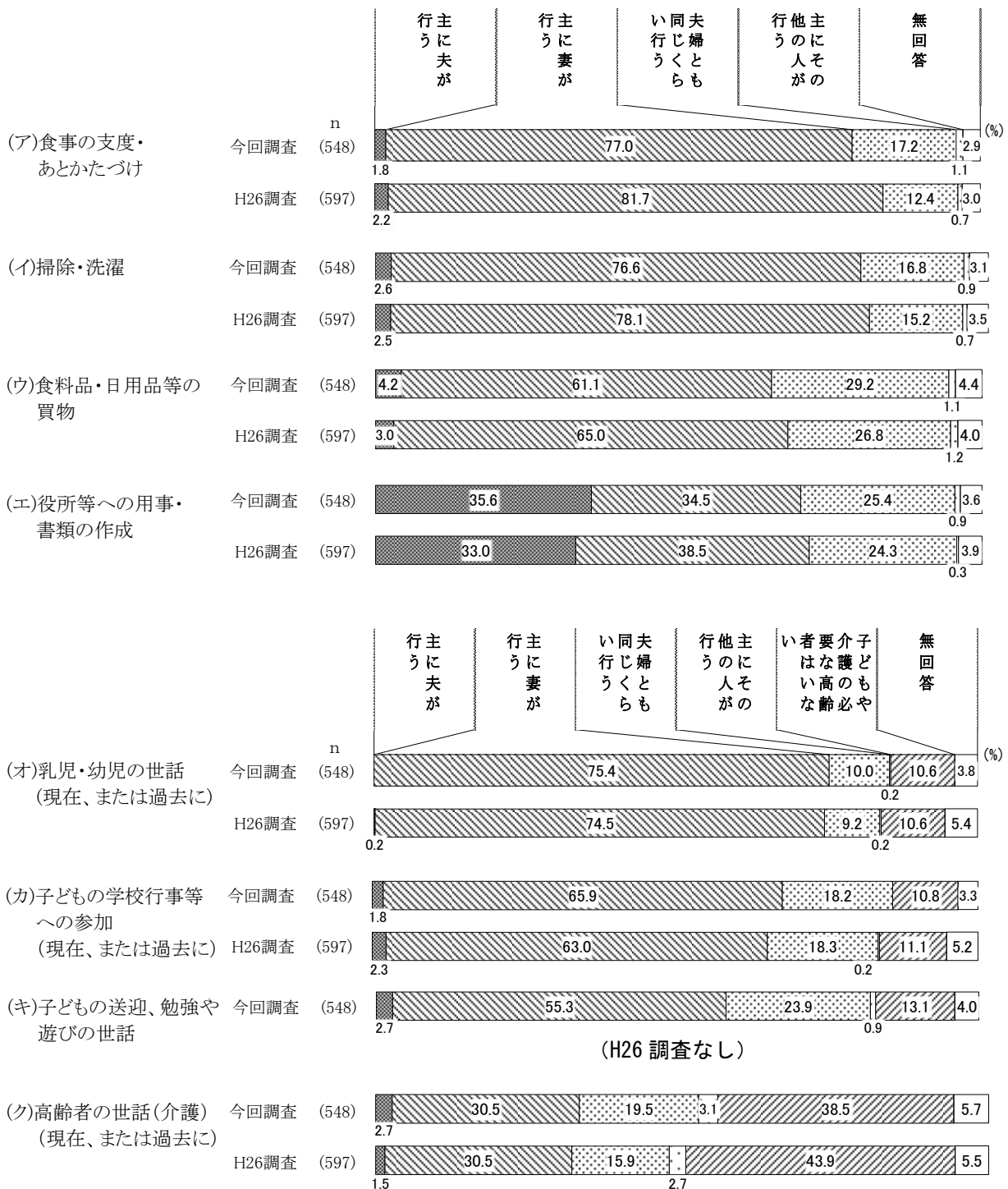
- 結婚しない理由は、「結婚の必要性を感じない人が増えたから」が最も高く、次いで「収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから」、「自由や気楽さを失いたくないという人が増えたから」となっている。なお、「結婚後も女性が働き続けられる環境が整っていないから」は5番目である。



(3) 家事等の役割分担

【経年比較◀ (ア) 現在の役割分担 ▶】

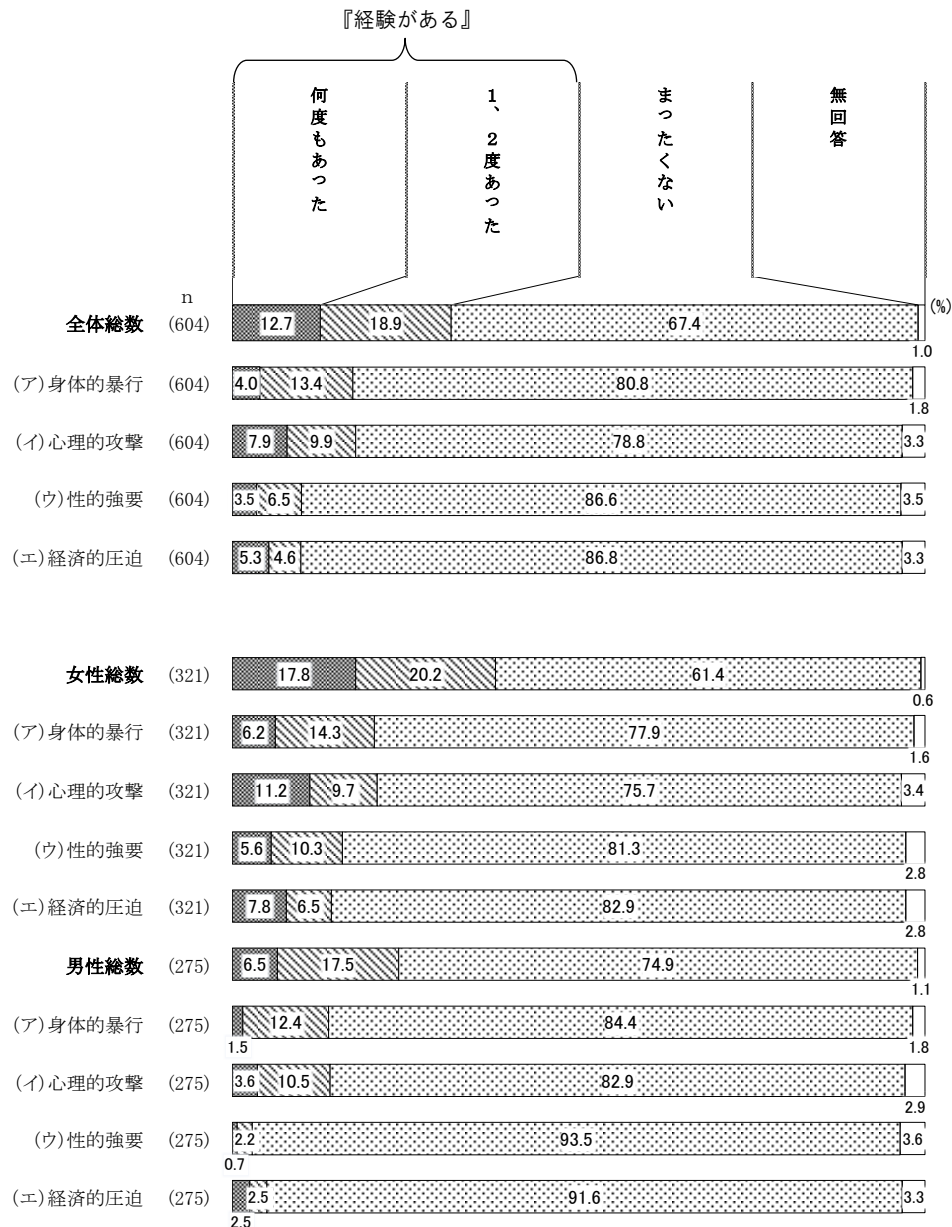
- 依然として家事等については「主に妻が行う」傾向がみられるが、「(エ)役所等への用事・書類の作成」は「主に夫が行う」が多い。
- 「夫婦とも同じくらい行う」は、「(ア) 食事の支度・あとかたづけ」で今回調査が前回調査よりも4.8ポイント、「(ク) 高齢者の世話(介護)(現在または過去に)」も今回調査が3.6ポイント高くなっている。
- 一方、「主に妻が行う」は「(ア) 食事の支度・あとかたづけ」で今回調査が前回調査よりも4.7ポイント、「(エ)役所等への用事・書類の作成」で4.0ポイント、「(ウ)食料品・日用品等の買物」で3.9ポイント低くなっている。



4 DVについて

(1) DVの被害経験〔新規〕

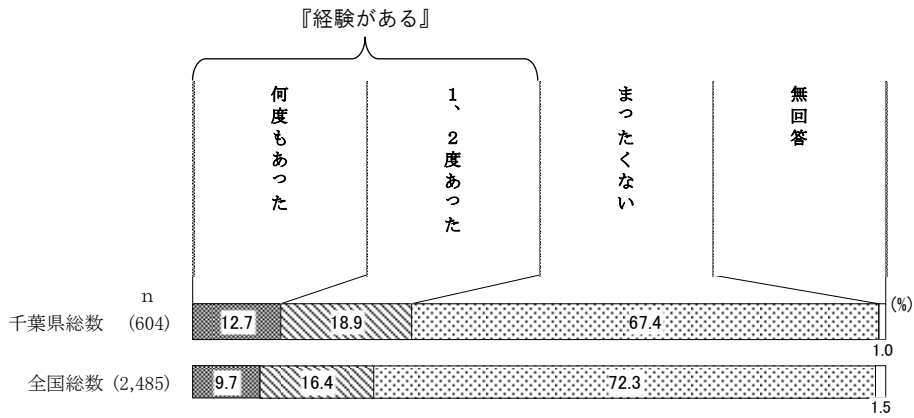
- DVの被害経験について聞いたところ、全体では約3人に1人は配偶者等から被害を受けたことがあり、女性の約3人に1人、男性の約4人に1人が被害を受けている。
- 何度も被害を受けた人は、全体では約8人に1人、女性では約6人に1人、男性では約15人に1人となっている



- (ア) 身体的暴行：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど
 (イ) 心理的攻撃：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など
 (ウ) 性的強要：いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのにポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど
 (エ) 経済的圧迫：生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

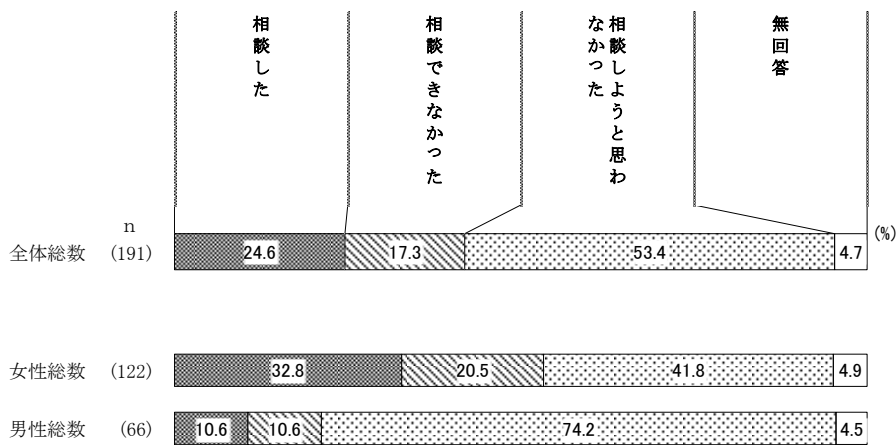
【全国比較<<DVの被害経験>>】 ※全国：内閣府_平成29年度男女間における暴力に関する調査

- 配偶者等からなんらかの被害を受けたことがある人は、全国では約4人に1人、千葉県では約3人に1人となっている。



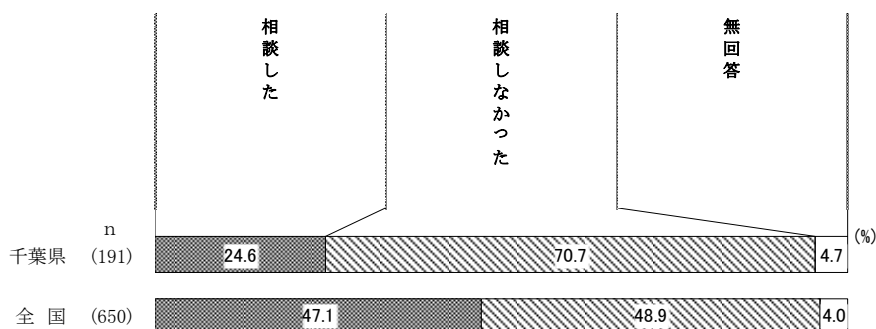
(2) DV相談の有無〔新規〕

- DV相談の有無について聞いたところ、全体では2割半ばの人が相談をしている。
- 性別でみると、女性の3割を超える人が相談をしているが、男性で相談をしている人は約1割にとどまっている。



【全国比較<<DV相談の有無>>】 ※全国：内閣府_平成29年度男女間における暴力に関する調査

- どこかに相談した人は、全国では約5割、千葉県では2割半ばとなっている。



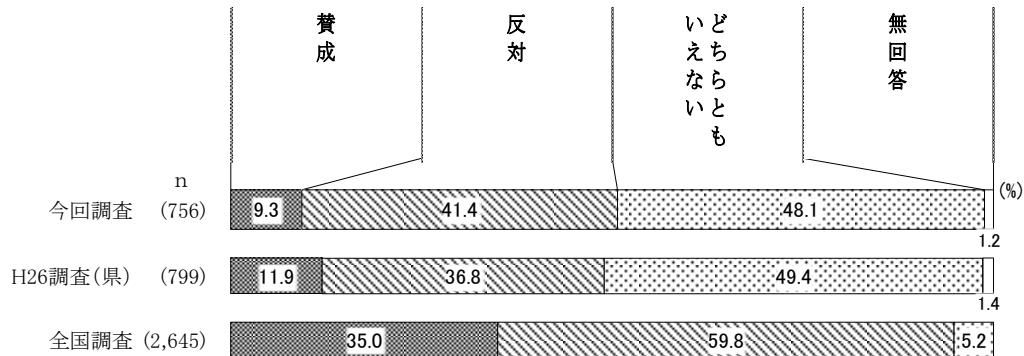
5 仕事と生活の調和について

(1) 男女の役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方）

※全国：内閣府_男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年度）

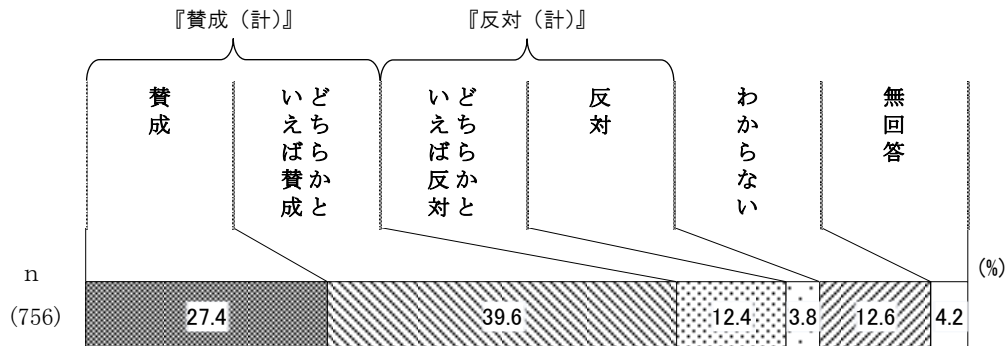
「賛成」：「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計、「反対」：「反対」、「どちらかといえば反対」の合計

- 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担意識について聞いたところ、「反対」が「賛成」を大きく上回っている。
- H26調査と比較すると、「賛成」は減少、「反対」が増加している。
- 全国調査と比較すると、千葉県は、「賛成」、「反対」とともに低く、「どちらともいえない」が全国よりも高くなっている



(2) 男性の育児休業取得の義務化についての考え〔新規〕

- 男性の育児休業取得の義務化についての考えを聞いたところ、『賛成（計）』が『反対（計）』を大きく上回っている。



(3) 男性の育児休業取得の義務化について賛成する理由・反対する理由（いくつでも複数回答）（上位3項目）〔新規〕

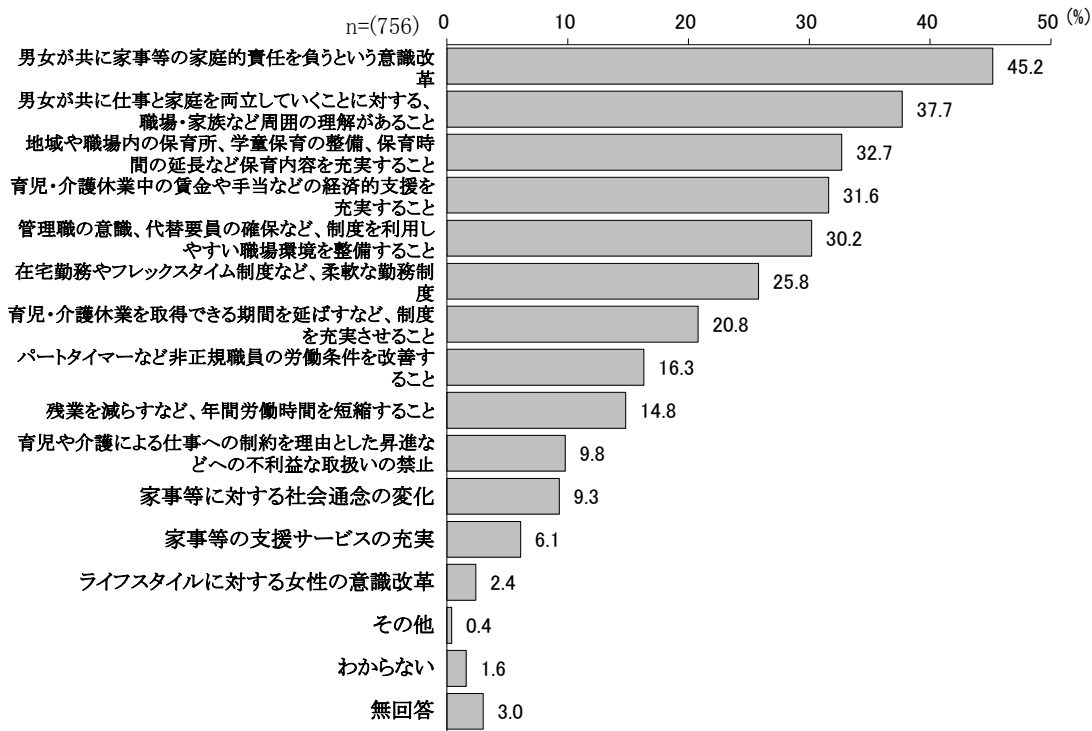
- 賛成する理由は、「女性の子育てに対する負担が軽くなると思うから」が最も高く、反対する理由は、「義務ではなく、夫婦の選択・判断で行うべき」が最も高くなっている。

順位	賛成する理由	件数	(%)
1	女性の子育てに対する負担が軽くなると思うから	391	77.3
2	子育ては夫婦で行うものだと思うから	382	75.5
3	義務化すると、取りやすい雰囲気ができるから	345	68.2

順位	反対する理由	件数	(%)
1	義務ではなく、夫婦の選択・判断で行うべき	100	81.3
2	同僚への負担が増えるから	53	43.1
3	収入が減少するから	42	34.1

(4) 仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備（3つまで複数回答）

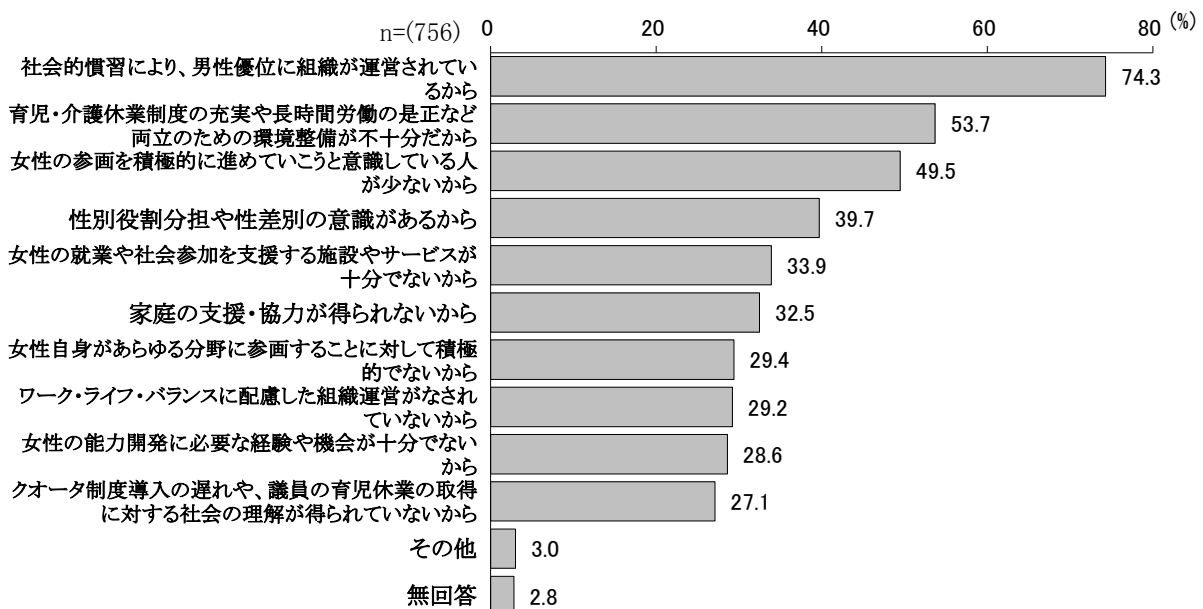
- 仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備は、「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」が最も高く、次いで「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対する、職場・家族など周囲の理解があること」、「地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」となっている。



6 女性の活躍の推進について

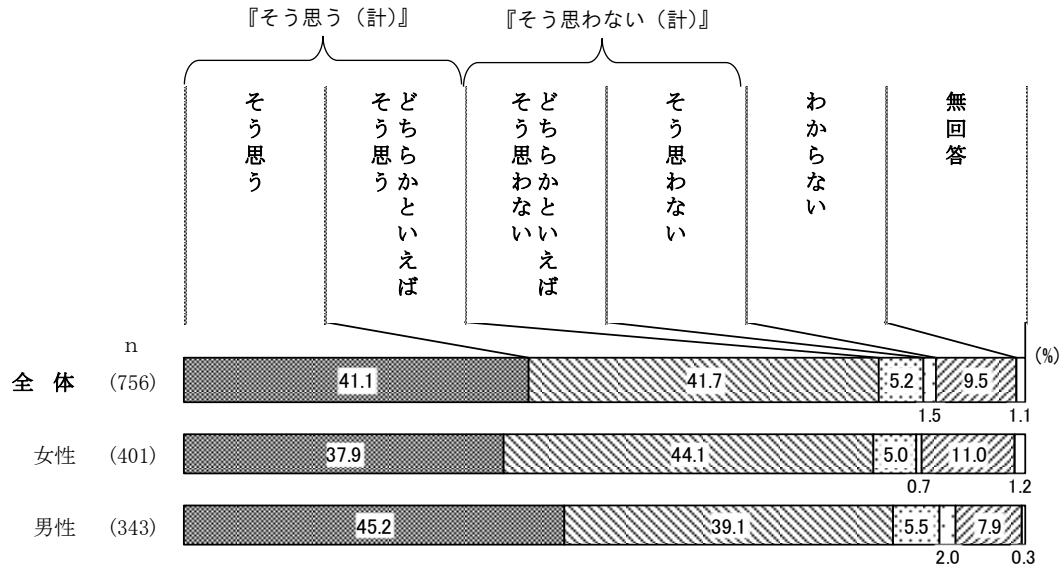
(1) 政策や企画、方針決定の場に女性の割合が少ない理由（いくつでも複数回答）〔新規〕

- 政策や企画、方針決定の場に女性の割合が少ない理由について聞いたところ、「社会的慣習により、男性優位に組織が運営されているから」が最も高く、次いで「育児・介護休業制度の充実や長時間労働の是正など両立のための環境整備が不十分だから」、「女性の参画を積極的に進めていこうと意識している人が少ないから」となっている。



(2) 女性の活躍についての考え〔新規〕

- 女性の活躍を推進したほうがよいと思うか聞いたところ、『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』を大きく上回っている。
- 男性が女性よりも「そう思う」が多くなっている。



(3) 女性の活躍を推進した方がよい理由／推進しない方がよい理由（いくつでも複数回答）（上位3項目）〔新規〕

- 女性の活躍を推進した方がよい理由は、「女性の意見が反映されることにより、多様な視点が加わり、新たな価値や商品サービスが創造される」が最も高くなっている。
- 推進しない方がよい理由は、「昇進等は、性別にかかわらず、能力に応じて行うべきである」が最も高くなっている。

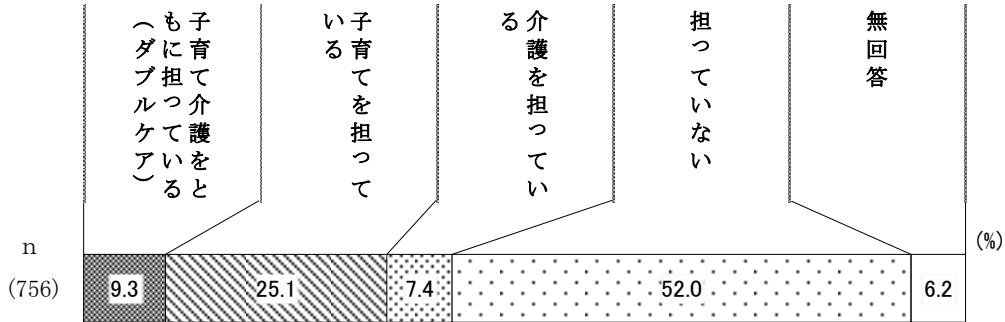
順位	推進した方がよい理由	件数	(%)
1	女性の意見が反映されることにより、多様な視点が加わり、新たな価値や商品サービスが創造される	498	79.6
2	男女問わず活躍できるようになる	408	65.2
3	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	328	52.4

順位	推進しない方がよい理由	件数	(%)
1	昇進等は、性別にかかわらず、能力に応じて行うべきである	31	62.0
2	家事も立派な仕事であり、必ずしも外で働く必要はない	21	42.0
3	今より仕事が優先され、家庭生活に支障を来すことが多くなる	17	34.0

7 少子・高齢化について

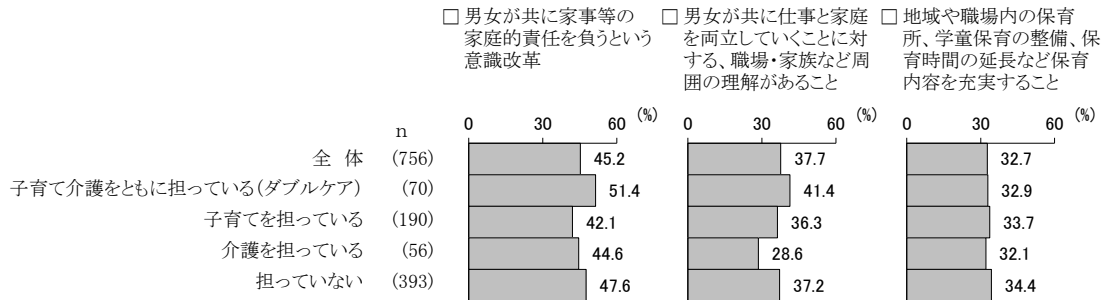
(1) 子育て、介護の状態〔新規〕

- 「子育て介護をともに担っている（ダブルケア）」は約1割、「子育てを担っている」が2割半ば、「介護を担っている」は約1割となっている。



(参考)

【子育て、介護の状態別・仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備（3つまで複数回答）（上位3項目）】



【介護を担っている人が求める仕事と家庭生活の両立のために必要と思う環境整備（3つまで複数回答）（上位3項目）】

順位	環境整備	件数	(%)
1	男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革	25	44.6
2	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること	22	39.3
3	管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること	21	37.5

令和元年度 男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査報告書 概要版

千葉県 総合企画部 男女共同参画課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号

電話:043-223-2372 FAX:043-222-0904